

市長が行く

No.100

茂原市の財政 10年前と現在

茂原市長 田中豊彦



このコラムも今回で1000回目を迎えることとなりました。そこで今回は、私が市長に就任してからの10年間を振り返ってみたいと思います。

まず、市長就任当時ですが、

二度の合併協議が破たんし、その原因として茂原市の多額の借金があげられていました。元東京都知事の猪瀬氏が、「茂原は第二の夕張になる」と言ったことは有名ですが、確かに土地開発公社を使った隠れ借金が約200億円、またそのほかの借金も含めると約800億円にも上り、もうこれ以上新たな借金はできない状況で、なおかつ財政調整基金（いざという時のための貯金）は2〜3億円しかありませんでした。

このように悪い状況の市は千葉県下でもほかになく、どうしたらこの難局を抜け出すことができるか、必死に考える毎日でしたが、それでも教育現場の荒廃を目の当たりにし、厳しい財政の中でやりくりしながら（とても不安でしたが）、耐震化や改修を行いました。

またさらに、日立や東芝が撤退し、税収上でも大きな不安を抱えることとなり、まさに泣きつ面に蜂とはこのことかと歯軋りする思いでした。しかし、この茂原市をつぶすわけにはいきません。そのような状況でも、少しでも前向き、借金を減らす施策を考え、一つ一つ根気よく実行しようと考えました。

まずは、多年にわたって問題となっていた給食公社の民営化、それからひめはるの里の民間委託、土地開発公社の解散、石神地区の民間による開発（ソーラー事業）などにより、かなり支出が抑えられました。また、一方で、IP

S（現在のジャパンディスプレイ）や沢井製薬の新工場の誘致などに成功したことで、日立や東芝が抜けた穴を埋めることができました。

そういったことが功を奏し、徐々に財政は健全化へと進んできています。市の職員たちも本当に良くやってくれたと思います。今現在、約800億円あった借金は約550億円に減り、2〜3億円しかなくなった財政調整基金は、約50億円になりました。もはや茂原市は第二の夕張と言われるような状況では全くなく、市民の皆さんもそこは安心して良いと思います。ただ、二度の合併破たんを経た現在の広域行政（地域住民の生活に密着した水道、消防、ゴミ、医療、斎場）などへの財政負担は、ずっと変わらず、6割以上の負担を続けてきており、少

子高齢化の人口減少時代の中

で、このままで良いのかを考

える時期にきているように思

います。

かつては、借金が多かった

ことを理由に合併を断られた

「市長が行く」は平成20年7月1日号から掲載が始まり、今号で記念すべき100回目を迎えました！

そこで、過去の記事を振り返り、多かった話題トップ3をご紹介します。

- 第1位 市政や国政、広域などの行政について（約4割）
- 第2位 企業誘致や農業などの産業について（約2割）
- 第3位 財政や災害について（それぞれ約1割）

そのほか「茂原が最高気温？」と題した時事ネタや、「善意の連鎖」と題し、身近に起こった出来事などを綴った記事もありました。

100回にあたり市長にお話を伺いました。

◆印象に残っている回は？

市長・・・やはり土地開発公社の解散や財政健全化について書いた回かな。土地開発公社の解散は本当に苦労したけれど、財政健全化も進められていくからね

印象に残っている回を振り返ると複数回にわたる内容でした。今後も「市長が行く」をお楽しみに！